明細書

発明の名称 : 情報処理装置、情報処理方法及びプログラム

技術分野

[0001]

本技術は、自己位置を推定する情報処理装置等の技術に関する。

背景技術

[0002]

近年、視覚を通じて仮想空間に存在するように知覚させるＶＲ（Virtual Reality）技術や、現実世界における実物体に仮想オブジェクトを重畳表示するＡＲ（Augmented Reality）技術が広く知られるようになってきている。ＶＲ技術、ＡＲ技術は、例えば、ヘッドマウントディスプレイや、スマートフォン等の各種の情報処理装置に搭載されている。

[0003]

ＡＲ技術や、ＶＲ技術においては、情報処理装置における自己位置を正確に推定する必要がある（例えば、下記特許文献１参照）。

先行技術文献

特許文献

[0004]

特許文献1 : 特開２０１７－０７２５６０号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005]

しかしながら、情報処理装置（ヘッドマウントディスプレイ等）を付帯するユーザが、車、電車等の乗り物に乗っているような特定の状況下にある場合、自己位置の推定の精度が低下してしまうといった問題がある。

[0034]

表示部３は、シースルータイプの表示部であり、グラス部１５の表面に設けられている。表示部３は、制御部１の制御に応じて、仮想オブジェクト２０（図１０参照）を表示することで、グラス部１５を介してユーザが見ている実空間上に仮想オブジェクト２０が配置されているようにユーザに認識させる。なお、表示部３は、非シースルータイプの表示部であってもよい。この場合、撮像部４により撮像された画像が表示部３上に表示される。